

広島大学大学院  
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
第3回リトリートを開催しました

平成26年7月19日（土）～20日（日）に、プログラム学生、教職員、そして招へい講師41名が参加して第3回リトリートを広島エアポートホテルにて開催しました。

初めに岡本哲治プログラム責任者から開会挨拶があり、続いて広島平和記念資料館館長の志賀賢治氏から「Do you see “Hiroshima” 2.0 (きみはヒロシマを見たか)」という演題にて招へい講演が行われ、「記憶の継承は常にその不可能性とのジレンマの内にある。被ばく者の苦悩に本当に共感できているのかは誰にもわからないが、それでも私たちは被ばく者の痛みを自ら想像しようとすることはできる。」とのお話があり、放射線災害復興を推進するグローバルリーダーを目指すプログラム学生はもとより教職員にとっても非常に重要な学習機会となりました。

2日目には、本プログラム一年次生が参加したアメリカ合衆国テネシー州の放射線緊急時支援センターREAC/TSでの実践的トレーニングへの報告が英語で行われ、成果が確認されました。また、英語による競技ディベートのデモンストレーションが行われ、アクティブな英語学習をプログラム全体で進めていく必要性について共通認識を持つことができました。



岡本責任者 挨拶



志賀館長 講演



イングリッシュディベートの様子



記念撮影